

ササの花の開花について

田植作業中の農家の方から、「ササの花が咲いている」との情報がありました。ササの開花は60年に1度などと言われていますが、明確には調べられておらずわからないことも多いようです。確かに私も車で見渡してみると萌平トンネルのあたりから小平町寧楽にかけて所々で開花しているササを見かけました。

ある学芸員におたずねしてみましたところ、「ササ類の開花自体は珍しいことではなく、毎年このくらいの時期にあちこちで見られます。一方、ササはある程度の範囲の個体が同調して開花する性質があります。その規模はいろいろで、小規模なものは特に目立ちませんが、時に大面積が一斉に開花することがあり、メディア等で話題になることがあります。ササは開花後に枯死するため、大きな面積になると多くの人の目を引きまします。凶作などの前触れなどと語られることもありますが、科学的な根拠は薄いのではないかと思います。」とコメントを寄せていただきました。

では、北海道の先住民、アイヌの人々はササの開花をどのように受け止めたのでしょうか。更科源蔵・更科光『コタン生物記 I 樹木・雑草篇』（1976年、法政大学出版会）によると、「日本の俗説ではササの実がなる年は凶作であると言われているが、コタンの人々は山の神であるカムイ・ウナルペ（神の叔母様）がさずけてくれたものとして、ササの実をカムイ・アマム（神の穀物）と呼び、これを採集したあとは感謝の酒や木幣をあげた。阿寒地方ではアイヌ・アマム（人間の穀物）とも呼んだ。」と言うことで、ササの実という貴重な穀物を与えてくれるイベントとして受け止められているようです。

根拠はないものの、時に凶作の前触れとして語られ、アイヌの人たちは山の神であるカムイ・ウナルペ（神の叔母様）からの授かり物とみるササの開花。自然を相手にする農家の皆さんには記憶に残る出来事になるかも知れません。

（小平町教育委員会 長澤）



図書室だより

図書室図書検索アドレス
<http://www.lib-finder.net/obira/>

【開館時間】 10:00~12:00 / 13:00~17:00
 【休館日】 毎週月曜日・年末年始(12月31日~1月5日)
 月曜日以外の祝日は開館しています。

* 鬼鹿支所、達布支所を窓口にて図書の借受、返却ができます。

新 着 図 書		
ジャンル	書 名	著者・出版社
一般書	小説	トランパー TRAMPER(横浜みなとみらい暴対係) 今野敏:著/徳間書店
	地理・紀行	まっふるマガジン 兵庫 姫路城・神戸 但馬・淡路島 '24 <関西08> 秋田 角館・乳頭温泉郷 '24 <東北06> 長崎ハウステンボス 佐世保・五島列島 '24 <九州04> 宮崎高千穂 日南・霧島2023 <九州09> 清里・ハヶ岳 蓼科2023 <甲信越06> <5冊> 昭文社
児童書	絵本	パンダのおさじとフライパンダ 柴田ケイコ:作絵/ポプラ社
	絵本	はたけのごちそうな〜んだ?くだもの すずきもも:作絵 有村利治:監修/アリス館

今月の本棚



「絵本で夏祭り」

お日さまがまぶしい暑い夏。嵐も来る夏!
 負けないで、いろいろな夏の楽しみを見つけましょう。

「科学絵本でSDGs」

こどもたちの科学への扉が開きますように・・・。

